

子供たちの期待に応え、UAEで小石丸の卵が孵化

アブダビとドバイの日本人学校は大騒ぎ



UAEに小石丸の卵が到着して二日目。アブダビとドバイの日本人学校で同時に小石丸が孵化しました。
ほとんどの子供たちが蚕を見るのが初めてとあって、あちらこちらから「かわいい」の大歓声が挙がる中、「さわってもいい」「しっかりと手を洗ってらっしゃい」と児童と先生の会話がとても弾んでいたのが印象的でした。

アブダビで、ドバイで、「かわいい!」

アブダビ日本人学校(梶山明彦校長)では、久須美克典先生(北海道)、木村雄一先生(群馬県)などが中心となってホームページなどのツールを小石丸プロジェクト用にアレンジ。父母をはじめエミラティなど多くの関係者に情報発信を開始。エミラティには英語版も整えています。また、両校は東京の五つの小学校と小石丸の飼育についての友好メールもスタートします。



中東で小石丸の孵化は初。産卵も

アブダビの日本人学校でも小石丸が孵化(上記写真)毛蚕(けご)と呼ばれ、持参した桑の葉を元気に食っています。今後、三週間から四週間かけて五齢で繭になります。アブダビ日本人学校は七月十八日、ドバイ日本人学校は同二十五日に終業式を迎えることから繭になるまでが微妙なところ。ギリギリのタイミングまで育てていただき、後はしっかりとフオローしていきます。

ドバイ日本人学校(山本昭比古校長)では早々にサンプルとして持参した小石丸の繭が羽化し産卵(下記写真)
中東での日本の固有種の小石丸が産卵したのは初とみられ、同校の向山先生(五年生担当)は「UAEで産卵された、ひじょうに貴重な卵。無事に育って、逆に日本の小学校に感謝の気持ちを込めてプレゼントしたいです」と期待を寄せていました。

